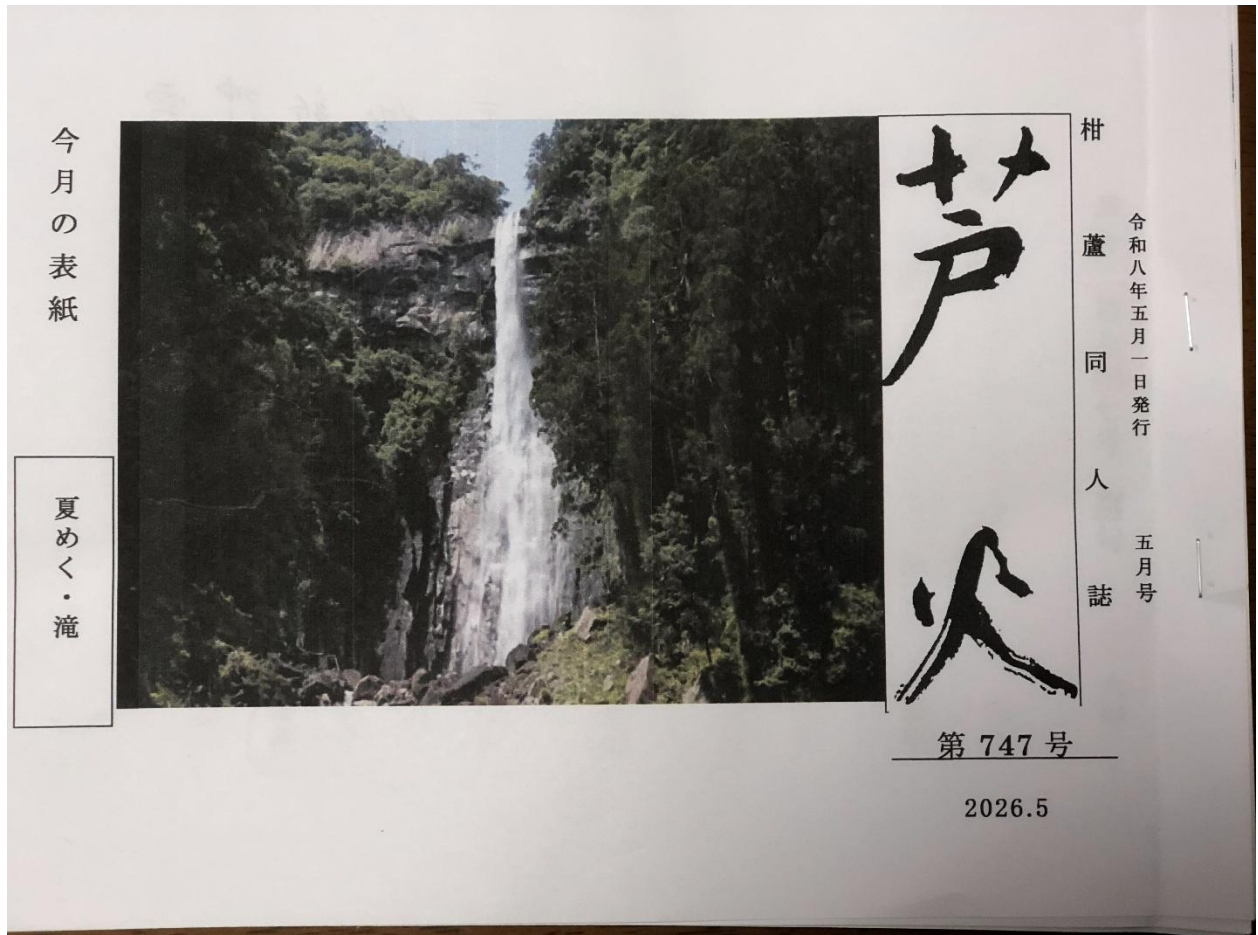


俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第747号（令和八年五月号）

- ・表紙：「滝・夏めく」（次月兼題）
- ・初夏の季語（植物）



【季語・滝（三夏・地理）】

【子季語】

瀑布、飛瀑、滝壺、滝しぶき、滝風、滝の音、男滝、女滝、滝見、滝涼し、滝道、滝見茶屋

【解説】

年中滝はあるが涼気から夏の季語とされた。人工的に庭園などに作られたものを作り滝という。季語として認められたのは近代以降である。江戸期は別の季の詞を必要とした。

【有名俳人の句】

- ・うら見せて涼しき瀧の心哉／松尾芭蕉
- ・神にませばまこと美はし那智の滝／高浜虚子
- ・滝をのぞく背をはなれある命かな／原石鼎
- ・滝殿に人あるさまや灯一つ／内藤鳴雪「
- ・たのしさとさびしさ隣る滝の音／飯田龍太

- ・羽衣のごとくに滝の吹かれをり／長谷川權
- ・瀧の影瀧におくれて落ちにけり／高田正子
- ・瀧の上に水現れて落ちにけり／後藤夜半
- ・滝落ちて群青世界とどろけり／水原秋櫻子

\*\*\*\*\*

☆高得点者および高得点句

\*前月の清記表に記載された10名の50句のなかから互選の結果、以下の同人が高得点者となりました。併せて高得点句も掲載します。

<高得点者(敬称略)>

14点 碧亥、11点 穂心、10点 要、9点 温州・修平

<高得点句(4点以上)>

- ・花筏寄るや蹴上の船溜まり／穂心・・・・・・・・・・6点
- ・爺が焚く得意料理の菜飯かな／要・・・・・・・・・・5点
- ・難聴の耳へ念押す初音かな／碧亥・・・・・・・・・・4点
- ・花種蒔く匙一杯の幸せを／碧亥・・・・・・・・・・4点
- ・疲れしを叩き励ます遍路杖／要・・・・・・・・・・4点
- ・代々の女系家族や雛の家／甲舟・・・・・・・・・・4点

<惜しい3点句>

- ・猫の背にひとひら載せて花の昼／修平
- ・新調のジーンズはきて青き踏む／温州
- ・戸をたたく春一番のお告げかな／六甲
- ・浅春や机に小さなインク壺／碧亥
- ・雪洞の灯りに浮かぶ桜かな／温州
- ・縁側に湯呑の二つ桜風／修平
- ・薄墨の儂き白や根尾桜／碧亥

\*\*\*\*\*

☆特選句および選評

\*50句の中で特によかったと思った句に選評を付して各人が一句選びます。

特選句には2点のポイントが与えられますが、特選句が必ずしも高得点句になるとは限りません(高得点句になるには多くの同人の選句が必要です)。

- ・川面行く花の小舟を目で追ひて／修平・・・・・・・・・・1名の選  
(選評)・のどかなひとときを感じます。
- ・爺が行く得意料理の菜飯かな／要・・・・・・・・・・1名の選  
(選評)・老夫婦二人だけの生活が長くなって来ると、妻の状態が悪いときには、当然漢料理せざるを得ない状況が増える。意外に男は料理好きが多いのである。
- ・雪洞の灯りに浮かぶ桜かな／温州・・・・・・・・・・1名の選  
(選評)・夜桜見物の雰囲気が出ています。夜の闇に満開の白い桜の花が雪洞の明かりに浮かぶ幻想的な光景です。
- ・げんげ田の少女小まめに首飾り／恵吾・・・・・・・・・・1名の選  
(選評)・この情景は昔も今も変わらない。少女時代ひとときの淡い思い出だ。

- ・縁側に湯呑の二つ桜風／修平  
(選評) いろいろ読み方の出来る句である。余韻もあり、風情もある句で、好きです。
- ・薄墨の儂き白や根尾桜／碧亥  
(選評) 桃色が白、やがて薄墨とその色を変えて散っていく花びら。桜が散る景は儂さが際立ちます。さすが文人にも愛されたといわれる名所。
- ・戸をたたく春一番のお告げかな／六甲・・・・・・・・・・1名の選  
(選評) 早春の句なのでしょう。雨戸を叩くような春一番に目を覚まされた様子が浮かびます。「お告げ」という表現に惹かれました。
- ・花種蒔く匙一杯の幸せを／碧亥・・・・・・・・・・1名の選  
(選評) “幸せ” という語は上手く使えないことが多いが、この句ではぴったりである。
- ・難聴の耳へ念押す初音かな／碧亥・・・・・・・・・・1名の選  
(選評) 難聴であれば小さい音は聞こえない。ここで詠んでいる初音は何の音かわからないが、念押すという言葉が面白い。
- ・浅春や机に小さなインク壺／碧亥・・・・・・・・・・1名の選  
(選評) 春とは言えまだまだ肌寒い時期、とある文豪の記念館を訪れた時、きれいに片付けられている書斎の机に置かれたインク壺が印象に残った。もう、使うこともないが、ペン先の余分なインクを落として、原稿に筆を走らせたであろうインクの痕跡が見えそう。

\*\*\*\*\*

## ☆その他のトピックス

### 1. 今月号の清記

◎今月は10名の方が合計50句を出句されました。

### 2. 近況報告等

◎温州より、柑芦会公式フェイスブックに『芦火』の活動のおしらせ』を掲載した旨報告させて頂きました。

◎修平様より、「日本人は道徳を忘れたのか」というタイトルで、電車の優先席をめぐる最近の風潮、特に若者の道徳、マナーに関して問題提起がありました。

◎碧亥様、勝様、要様よりご自身の最近の体調についてご報告頂きました。お三方ともお元気そうで何よりです。

◎要様より「ショート・ショート」の投稿がありました。テーマは「幼なじみ」です。

### 3. 第十五句集について

◎編集長・ほなが穂心様より、同人の過去四年間の投句の集大成である「句集」の編集作業も順調に進んでおり、印刷製本は六月中旬に完成、同人の手元には七月初旬に届けられる予定である旨、ご報告を頂きました。

なお、今回の句集は「第十五句集」であり、芦火が創刊されて六十年の節目のあたるものです。

\*\*\*\*\*

### <俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の11名
- ・昭和38年（1963年）結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）

### <編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）（俳号：穂心）  
メルアド：[suishin2010@dream.ocn.ne.jp](mailto:suishin2010@dream.ocn.ne.jp)／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先：
  - ・山下 勝（大学14期・前編集者）（俳号：勝）  
メルアド：[yama723@nifty.com](mailto:yama723@nifty.com)／携帯：090-1349-6727
  - ・平林 義康（大学20期）（俳号：温州）  
メルアド：[hirabayashi9497@yahoo.co.jp](mailto:hirabayashi9497@yahoo.co.jp)／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上  
(文責：平林 温州)